

Ⅵ 魚礁設置効果調査

Ⅰ 目 的

魚礁設置による生産効果及び経済効果を把握し、今後における設置の効率的パターンを究明するための一環として、ダイバーによる潜水撮影をおこない魚礁への集魚状況を直接探ることを目的とした。

Ⅱ 調 査 内 容

1. 調 査 期 間 昭和49年11月～昭和50年3月

2. 調 査 場 所

(1) むつ湾川内沖

3. 調 査 員

技 師 小田切 譲 二

〃 高 梨 勝 美

増殖センター

技 師 小 川 弘 毅

漁政課 技師 坪 田 哲

4. 調 査 項 目

(1) 設 置 状 況

(2) 集魚種類及び集魚状況

(3) 付 着 生 物

5. 調 査 方 法

(1) 水中テレビによる撮影

(2) 8mmカメラ 〃

(3) 水中カメラ 〃

Ⅲ 調 査 結 果

1. 川 内 沖

(1) 設 置 状 況

川内町地先（黒崎灯台基点 175° 2,000 m）水深 20 m，底質砂

ブロックの投入は48年度以前数ヶ年に渡って設置されたものであるが完全に破損していたものはなく、一部破損しているものが数ヶ見られた以外は原形のまま、多くは積み重ならず集積し、稀に2段積のものもみられた。砂地に埋った状況は全くみられなかった。

(2) 集魚種類及び集魚状況

A アイナメ ブロックに設けられた穴の中を遊泳しているのがみられた。

B クロソイ ブロック上やブロックとブロックの間隙を遊泳しているのがみられた。

C 種不明の小魚 ブロックに付着した生物周辺を数匹群れて遊泳しているのがみられた。

(3) 付 着 生 物

ホヤ、ウニ、ヒトデ、その他の生物がコンクリート面を覆おうほどに付着していた。

付着生物が多いブロックに魚も付き易い傾向うかがわれた。

2. 鯨ヶ沢沖並型魚礁（3月17日潜水）

(1) 設 置 状 況

鯨ヶ沢地先（弁天崎 345° 8,500 m）

水深 51 m，底質砂

一部2～3段積みになっているところがあった。

ブロックが砂に埋っているようなことはなかった。

水平の流れは弱かったが垂直混合があり、海底から砂やゴミが舞い上り、視界は50cm以下で撮影の条件は悪かった。

(2) 集魚種類及び集魚状況

視界が悪かったため確認できなかった。

(3) 付着生物

水深が深いためか、貝藻等の付着はみられなかった。

Ⅳ 調査の成果および今後の課題

1. 調査の成果

アイナメ、クロソイ及び付着生物を撮影することができ、それぞれの魚礁への付き方の相違がわかった。

2. 今後の課題

ブロックの形状、積み重なり方の違いによる集魚種類及び季節的な集魚種類の推移を調査する必要がある。